2014학년도 중등학교교사 임용후보자 선정경쟁시험

일 본 어

수험 번호 : (　　)　　**성　명 : (　　)**

제 1차 시험	2교시 전공A	14문항 40점	시험 시간 90분

○ 문제지 전체 면수가 맞는지 확인하시오.
○ 모든 문항에는 배점이 표시되어 있습니다.

※ 답안은 모두 일본어로 작성하시오.

기입형 【1 ~ 10】

1. ⓐとⓑに該当することばを漢字または仮名で書きなさい。 [2点]

近年の韓国の日本語教育の現場では、「2009改訂教育課程による日本語Ⅰ科目教育課程」(教育科学技術部告示第2012-14号)の指針を受け、教育の主眼が言語の構造を中心とした学習から、言語疎通機能の習得へと移行しつつある。同教育課程で定められた「意思疎通基本表現」では、一つの形式が場面や状況、文脈などに応じて、さまざまな意思疎通機能を持ち得る。一例として、「～てくれ(～てください)」の場合、次のように、その意思疎通機能は実に多岐にわたる。

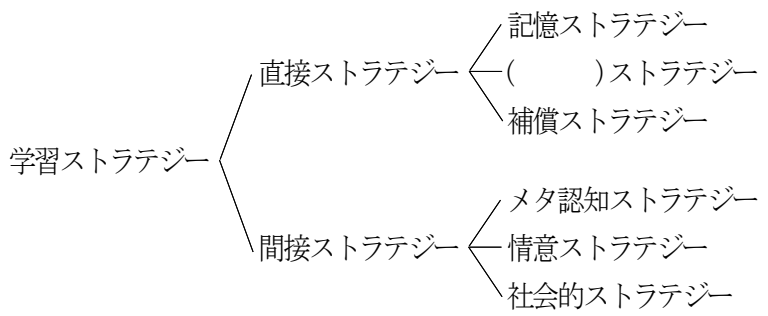
- ごめん。ちょっとその本貸してくれない？ (　ⓐ　)
- 遅れるわよ。ひろし、早く食べて! (指示)
- あっ、危ない、気をつけて! (警告)
- 早く元気になってくださいね。お大事に。 (　ⓑ　)

「意思疎通基本表現」では、これらの意思疎通機能のうち、「(　ⓐ　)」「指示」「警告」は行為要求表現に、「(　ⓑ　)」は配慮及び態度伝達表現に分類されている。

2. 〈A〉は学習ストラテジーについての説明であり、〈B〉は「どのように日本語を勉強したか」に対する学習者の答えである。(　　)に入るストラテジーの種類を漢字または仮名で書きなさい。[2点]

〈A〉

学習者は外国語学習の過程でさまざまなストラテジーを使っている。自分の学習をより効果的に進めるためにとる方略を学習ストラテジーと呼ぶ。オックスフォード(R. Oxford)は、学習ストラテジーを六つのタイプに分類した。この分類によると、学習ストラテジーは、目標言語に直接関わる直接ストラテジーと、自分の学習全体を管理したり、学習環境を整えたりする間接ストラテジーに大別されている。



〈B〉

〈(　　)ストラテジーの例〉

わたしは単語を覚えたらそれを組み合わせて少しずつ文を長く言う練習をしました。日本語に少し慣れてきたら、本や新聞、映画、日本のドラマなどのさまざまな資料を活用して自然な日本語に触れるようにしました。また、気になったら辞書や教科書を調べる習慣をつけ、自分なりに規則をノートにまとめてみました。翻訳をしながら意味をつかむことも日本語の文の構造を理解したり、分析したりするのに役に立ちました。

한국교육과정평가원

3. 次の場面にふさわしくない表現を一つ選び、適切な表現にかえなさい。また、その理由を書きなさい。[2点]

司　会：お二人の門出を祝って、乾杯！
参席者：乾杯！
司　会：では、新郎新婦上司の佐藤弘様より、お祝いのお言葉をいただきます。
佐　藤：新郎の誠君、新婦の由美さん、ご結婚おめでとうございます。まさか二人が付き合っていたなんて、私は同じ会社にいながらまったく気づきませんでした。今日のこの日を忘れず、末永くお幸せに！
…(中略)…
司　会：それでは、新婦のお色直しのあと、新郎新婦によるケーキ入刀がございます。新婦のお色直しの間、皆様、お食事を召し上がりながら、ゆっくりとご歓談ください。
…(中略)…
司　会：これをもちまして高橋家・宮本家ご両家の結婚式を終わらせていただきます。ありがとうございました。

4. ⓐに入ることばを漢字または仮名で書き、下線部ⓑに該当することばを一つ平仮名で書きなさい。[2点]

四つ仮名は、「じ」「ぢ」「ず」「づ」の四つの仮名、および、その仮名で表される音のことをいう。

古くは、「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」は、それぞれ異なる音(「じ」「ず」は摩擦音の[ʒi][zu]、「ぢ」「づ」は破裂音の[di][du])で発音されたが、室町末期になると「ぢ」「づ」が(　ⓐ　)化して[ʤi][dzu]となり、以後「じ」「ず」との混乱がみられ、17世紀末には現代と同じようになった。このために、「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」の間には、それぞれ仮名遣いの上でも、その使い方が大きな問題になった。

現代でも「ぢ」と「づ」で表記する語彙がある。具体的には、ⓑ同じ音が連続したため、後の音が濁音になった場合と二語の連合によって生じた場合とがある。

<条 件>
○ 日本語の辞書に載っている語に限る。
○ 人名、地名、外来語を除くこと。

5. ⓐには音節数を数字で書き、ⓑには該当することばを漢字または仮名で書きなさい。[2点]

日本語の音節には、音声学的単位としての「音節」と、音韻論的単位としての「モーラ(拍)」がある。

「音節」というのは「大きく聞こえる音を中核とした音のひとかたまり」を一音節とするものである。これに対して、「モーラ」は、特殊音節を含めて、「一音節の長さに相当する時間の単位」のことである。例えば、「オジサン」という語は３音節、４モーラであるが、これとミニマルペアになる「オジイサン」は(　ⓐ　)音節、５モーラである。このように、日本語は母音の(　ⓑ　)によって語の意味を弁別する機能を持っている。

6. ⓐとⓑに該当することばを漢字または仮名で書きなさい。[2点]

日本社会には、年齢、(　ⓐ　)、(　ⓑ　)など、さまざまな集団の違いや場面の相違に応じてことばの違いが現れる現象がある。これを位相といい、この違いが現れた語を位相語と呼ぶ。

このような現象は、音声・音韻、文字・表記、文法、語彙の各分野において見られる。例えば、「疲れた」と「しんどい」、「かたつむり」と「でんでんむし」は(　ⓐ　)の違いによるもので、「もう行くぞ」と「もう行くわよ」は(　ⓑ　)の違いによるものである。しかし、近年ではこういった位相語の境界があいまいになりつつある。

7. 文法的に正しくない表現を一つ選び、直しなさい。[2点]

ⓐ 親にとって一番大切なものは子供だ。
ⓑ 北海道の冬は耐えがたいほど寒かった。
ⓒ 息子が合格したら、みんなで飲みに行こう。
ⓓ 環境問題に対して各国が協議する必要がある。
ⓔ わたしは長時間バスに乗ると、気分が悪くなる。

8. (A)～(D)の中で、下線部の名称とその説明が一致しないものを一つ選び、説明に合った名称を漢字で書きなさい。[2点]

(A) 内向の世代は、昭和四十年前後に登場した作家たちで、イデオロギーにとらわれず、あくまで自己の内面を見つめながら現実をとらえようとする傾向を持った。
(B) 和漢混淆文は、仮名で書かれた和文体と、漢語や漢文訓読体、あるいは口語などの混じった文体で、鎌倉期以後の軍記物語や随筆などに多く用いられた。
(C) 新戯作派は、大正末から昭和初期にかけて同人雑誌『文芸時代』を中心に興った文学の一派で、斬新な感覚と表現技術の工夫という点に近代的な特色を持つ。
(D) 歌合は、平安初期以来、宮廷や貴族の間で流行したもので、歌人を左右に分け、詠んだ歌を一首ずつ組み合わせて判者が優劣を判定し、勝負を決める遊戯である。

9. 〈A〉の俳句を詠んだ俳人の名前を漢字で書き、その俳人の作風を〈B〉のⓐ～ⓓの中から一つ選びなさい。[2点]

〈A〉

○ 古池や　蛙飛びこむ　水の音
○ 五月雨を　あつめて早し　最上川

〈B〉

ⓐ 俗語や漢語、流行語などの俳言を用いて言語遊戯を主とする。
ⓑ さび･しをり･細み･軽みを重んじ、平易な表現で人生の深遠を象徴的に詠む。
ⓒ 式目の簡略化をはかり、奇抜な着想･見立てと軽妙な言い回しを特色とする。
ⓓ 古典などに材料を求め、浪漫的で叙情に溢れ、絵画的で印象鮮明である。

10. 次を読んで、自然な文の流れになるよう、(A)～(D)を並べかえなさい。[2点]

かつて日本人にとって欧米諸国とは、ほとんどが書物の中での存在にすぎなかった。そこで、たとえ日本人がこれらの国の文化を誤解したとしても、すぐ直接どうということはあまりなかったのである。

(A) 知人が私に話してくれたことであるが、日本から派遣されてパリに駐在していた商社員の息子さんが、ある日突然に登校拒否を始めた。調べてみると、その原因が、なんと太陽の色にあったのである。フランスの小学校に通っているうちに、何かで太陽の絵を描いたとき、この子一人だけが赤く塗ったため、フランス人の友達にひどくからかわれ、ショックを受けてしまったのだという。

(B) 太陽が赤の日本の文化では、月は黄である。ところが太陽が黄の文化では、月は白が普通であり、当然のことだが、黄ではあり得ない。このことを知らなかった日本人の親子は、絵本の太陽を月と思い、納得できなかったのである。

(C) ところが近頃のように、外国人との直接の交流が頻繁になり、普通の日本人が極めて手軽に国外に出かけるようになると、言語文化的な相互理解の欠如は、いろいろと無視できない摩擦や、笑うに笑えない問題を生み始める。

(D) また、次のような話もある。私の授業に参加していたある中年の婦人が、夫君と共にイギリスに滞在中、現地で買った絵本を子供が見ているとき、「お母さん、この本おかしいよ」と叫んで飛んで来た。見ると、何でもない町の風景の絵なのだが、太陽が真黄色に描いてある。子供は「昼間にお月様が出ているなんて、変だよ」といって聞かなかったという話である。

一つの国の文化というものは、このように一度それと分かってしまえば何でもないことに、当人が自覚していない極く小さな暗黙の社会的なとりきめやきまりが無数に含まれている。この部分が、いわば文化の根とでもいうべき基層を形成していて、この無自覚の部分の異文化間の食い違いが、大は異民族同士の対立反目といった深刻な問題から、小は帰国子女の不適応などの隠れた原因となることが多い。ことに全く同一と思われるものについての価値が正反対であるようなとき、思わぬ事件を引き起こすのである。

－鈴木孝夫、『日本語と外国語』一部修正

한국교육과정평가원

서술형 【1 ~ 4】

1. 〈A〉は教師１と教師２が教材について相談している場面であり、〈B〉はある日本語学習者のニーズである。〈B〉の学習者のニーズに最も合うものを教科書ⓐ～ⓓの中から一つ選びなさい。また、教科書ⓒとⓓは、それぞれどのようなシラバスに基づいているか、該当するシラバスの種類を書き、その違いを説明しなさい。[5点]

〈A〉

教師１：教科書ⓐは、学習者が実際に遭遇しそうなシチュエーション別に構成されていますね。
教師２：そうですね。教科書ⓑはどうですか。「勧誘」「感謝」「謝罪」というように表現別になっているので、似たような表現の違いも一緒に学習できますよ。
教師１：でも「コーヒー飲む？」は簡単ですけど、初級の段階から「コーヒーをお飲みになりませんか」という表現を学習するっていうのはちょっと難しいんじゃないですか。
教師２：それじゃ、教科書ⓒはどうですか。基礎から体系的に勉強するのにいいと思います。
教師１：まず名詞文を習って、形容詞文、動詞文の順に導入されていますね。
教師２：教科書ⓓもありますよ。「歌舞伎」「茶道」「祭り」のような日本文化をテーマごとに取り上げています。
教師１：それもおもしろそうですね。
教師２：ええ。本当にいろいろな教科書がありますね。うちの生徒たちにはどんな教材がいいでしょうか。

〈B〉

キム君は高校２年生です。来月、「アジア高校生テニス大会」の韓国代表として、日本へ行くことになりました。まだ日本語を勉強したことはありませんが、せっかく日本へ行くので買い物や交通機関などですぐに使える最低限の旅行用会話は勉強してから行きたいと思っています。

2. 下線部を適切な表現に直し、なぜ不自然なのか説明しなさい。また、そのほかの不自然な表現を三つ選び、適切な表現に直しなさい。[5点]

教師：みなさん、夏休みはどうでしたか。
カン：楽しかったです。夏休みの間、先生が見たかったんです。
教師：カンさんは、夏休みに何をしましたか。
カン：わたしはツアーで日本へ行きました。
教師：どうでしたか。
カン：知らない人と一緒の部屋でしたから不便でした。
教師：そうですか。イーさんは何をしましたか。
イー：わたしは家族と釜山へ行きました。さしみがおいしかったです。
…(中略)…
教師：みなさん、夏休みに楽しい思い出をたくさん作りましたね。では、宿題を出してください。
パク：先生、わたしは宿題を忘れましたね。
教師：そうですか。では、明日までに必ず出してくださいね。
パク：はい、結構です。

한국교육과정평가원

3. 〈A〉のⓐ～ⓗは反義(対義)語のペアである。これらの語はさらにある意味関係によって、四つのグループに分けられる。〈B〉のグループ１を参考に、〈A〉から同じ意味関係のものを二つずつ選んで、その意味関係をグループ２～４に書きなさい。

［5点］

〈A〉

~~ⓐ 貸す　：借りる~~
ⓑ 最大　：最小
ⓒ 当たる：外れる
~~ⓓ 上り坂：下り坂~~
ⓔ 北極　：南極
ⓕ 太る　：痩せる
ⓖ 好きだ：嫌いだ
ⓗ 地上　：地下

〈B〉

グループ１	ⓐとⓓは一つの事柄を相対する視点から捉えた反義関係である。
グループ２	
グループ３	
グループ４	

4. 次を読んで、＿＿＿＿＿に入る教師の説明の続きを書きなさい。

［5点］

教　師：日本語には２種類の形容詞があります。「重い」、「軽い」のように、名詞を修飾するときに名詞の前が「～い」になるものを「イ形容詞」といいます。「きれいな」、「静かな」のように名詞の前が「～な」になるものを「ナ形容詞」といいます。

学習者：先生、「大きい」は「イ形容詞」ですね。では、「大きな」は「ナ形容詞」ですか。

教　師：いいえ、そうではありません。「大きい」と「大きな」はどちらも意味的には＿＿。

<수고하셨습니다.>

한국교육과정평가원